

日本壊すTPP一直線の野田政権

大震災からの住民本位の復興が急がれるこの時期、野田政権はにわかにはTPP交渉の早期決着を打ち出し、復興を願う農漁村の住民に冷や水を浴びせています。大震災復興財源でも、大企業への減税と庶民増税をセットにした国民生活破壊路線を突っ走っています。いったいこの国はどこへ行くのか、私たちの暮らしはどうなるのか、しっかりと見据えるときです。

国民の願いは、大震災からの復興 住民本位の復興

東日本大震災・福島第一原発事故で、当分頓挫するかと思われたTPP(環太平洋連携協定)が、政権交代と共ににわかには火の手が上がってきた。

野田首相は所信表明で、「TPP交渉参加について、早期に結論を出す」と推進する立場を明確にし、政調会長に前原元外相を充てました。彼は、「国内総生産における第一次産業の割合は1.5%、これを守るために98.5%のかなり犠牲になっている」との一方的持論を展開する人物です。

交渉する際の要である玄葉外相は、TPP

P推進のための「開国フォーラム」を主導してきたし、枝野経済産業相は、TPPに加盟しているシンガポールのシエンロン首相に「早期に結論を出したい」と約束するなど、加盟促進の布陣を敷いています。野田首相自身は国連本部(ニューヨーク)での、オバマ米大統領との初会談において「できるだけ早い時期に結論を出したい」と表明。大統領はこれを「歓迎」し、逆に米牛肉輸入制限について「進展が必要」と受け入れを強要しました。

オバマへの手土産は 国民生活破壊のTPP

野田首相は「早い時期」を、11月12日に開催されるAPEC(アジア太平洋経済協力会議)首脳会議までとして、オバマ米大統領への最大の手土産にするため、経済連携に関する閣僚会議を開き決着させる構えです。TPPは、関税を原則撤廃

食料を世界中から輸入しているのに、何を輸出できるのでしょうか。唯一考えられるのが中国向けの米ですが、09年収穫された米847万tのうち輸出されたのは1312t、0.015%にすぎません。しかも価格は60kg当たり国内の半額以下7000円程度では、輸出拡大は不可能でしょう。さらに方針では営農規模を10倍以上に当たる20〜30畝まで拡大するとしています。集約は大変ですが、仮にできたとしても農家一戸当たりの農地面積が日本の104倍の米国、1590倍のオーストラリアとの格差を到底埋めることはできません。アメリカ型フルの押しつけに無条件に従い、国民生活を根底から壊す、TPPの危険な内容は政府からほとんど知らされていません。日本の食や文化、地域の未来を変えてしまう問題は、何よりも国民的な議論が必要で、そして何より重要なことは大震災の復興を最優先にすることです。



介護保険 来年5回目の改訂 保険料は1.34倍となる見込み 施設入所はますます難しく

介護保険が始まって12年、3年ごとの見直しの度に制度変更が行われ、保険料や利用料などの負担が増大してきました。来年の見直しで、制度はどのように変わるのか、私たちの望む介護保険になっていくのか・・・広域連合などに聞いて分かったことをお知らせします。あわせて10月1日に松本で開催された「格差のない介護制度をめざす県民大集会」の様子もお知らせします。

高瀬荘建て替えで 入所者は増えるのか

新高瀬荘が5丁目のアルプスシャツ跡地に建設されました。定員は旧施設と同じく80床のため、入所者の死亡や退所がないと新たな入所はできません。

〈特養の入所待ちの人数〉

北アルプス広域管内での入所待機者は170人。在宅が100人、残りは老人保健施設で待っている人です。

施設が増えるとその建設費や維持管理料がまかなうため、介護保険料が上がる仕組みになっており、特養の建設は抑えられています。今年7月にライフIIで29床増え、25年1月に

し、農産物の輸入を完全に自由化するもので、農林漁業と国民の食料に大打撃となります。さらに「非関税障壁」撤廃の名の下に、食の安全、医療、金融、保険、官公需公共事業の発注、労働など21分野にわたるあらゆる国民生活の「規制緩和」をねらうものです。農水省の試算では、TPPによ

る関税撤廃で、米の自給率は10%以下となり、食料自給率も現在の39%から13%へ。農林水産物の生産減少額は米の2兆円を含め4兆5千億円、農業の多面的機能の喪失額3兆7千億円、国内総生産(GDP)減少額8兆4千億円、就業機会の減少数350万人として

矛盾だらけの 農林漁業「強化」方針

政府は農林漁業強化方針をこの18日に出了ました。その一つに農産物輸出というものがあります。ちよと待つてほしい、日本は小麦、トウモロコシ、ソバ、果物、野菜などあらゆる(へ)

入場無料 第8回 池田クラフト展のお知らせ

= 自然の恵みに感謝して =

日時 10月29日(土)～11月6日(日) (9日間 10月31日は休館)
場所 北アルプス展望美術館および創造館
内容 池田町在住クラフト作家の作品展・販売とワークショップ
主催 北アルプス展望美術館(池田町立美術館)

＜展示・販売(美術館ホール)＞

- 川田 輝美 ビーズアクセサリ
- 篠田 明子 陶芸
- 服部 守正 工芸家具
- 平野 まり子 木工芸
- 松浦 あかね ガラス工芸
- 万代 久子 創作織物
- 宮沢 弘幸 陶芸
- 森岡 光男・宗彦 陶芸
- 甕 富喜好 手づくりバッグ
- 山崎 種之 スタンドグラス

なお、仁科典峰氏の漆芸展も開催されています。お気軽にご来場ください。

＜ワークショップ(創造館)＞

- 染付け教室**
10月29日(土) 10時、13時、14時
講師 篠田 明子
各回先着10名 参加費1500円
- ビーズアクセサリ教室**
10月30日(日) 9時半～12時半
講師 川田 輝美
定員20名 参加費1000円
- 藍染教室**
11月3日(木)
講師 万代 久子
持ち物 布、前掛け
定員10名 参加費1000円

れています。

地域包括ケアセンターでは、24時間体制でケアを行うことになりませんが、実施のための財政的な裏付けが国から示されておらず、市町村の判断に任せられることとなります。

また、現在看護職員が行っている「たんの吸引や経管栄養」の医療ケアは介護福祉士の仕事とし、介護福祉士やヘルパーが行っている「家事援助、生活援助」は民間事業者やNPOへ移行する方向とのことです。

介護保険改正法が国会を通つてしまいましたが、具体的実施に向けての要求運動が必要であると強く思いました。

介護県民集會に参加

10月1日に松本で開催された「介護県民大集会」(実行委員会主催)には、利用者家族や介護関係者、行政や病院職員、地域住民など700名が参加しました。

メインは、認知症の人と家族の会の副代表でもあり、2006年より厚生労働省から委嘱され「介護保険部会委員」として、頑張っている勝田登志子さんの講演でした。

介護保険制度の見直しを検討する介護保険部会は26人で



介護保険県民大集会 10月1日